

# 第22回日本緩和医療学会学術大会

## はじめに

平成29年6月23日、24日 パシフィコ横浜にて当大学医学部緩和医療学講座 有賀悦子教授大会長の下、第22回日本緩和医療学会学術大会を開催致しました。沖永佳史学長におかれましては、日頃より緩和医療学講座にご指導頂き、また、本学術大会におきましても懇親会をはじめと格別のご配慮をいただきました。ここに感謝の意を示させて頂くとともに本学術大会の報告をさせていただきます。

## 大会概要

大会メインテーマ:「集い対話する」「疾病と共に健やかさを生きるために」「社会の中で生きる医療となるために」

会期:2017年6月23日(金)~6月24日(土)

会場:パシフィコ横浜

参加者数:8857名

発表演題数:1154演題

## 主なプログラム

### ■海外演者講演

Director. Yves Gineste CIO「優しさを伝えるケア技術:ユマニチュード」の緩和医療への導入とその実践

Dr. Sandra Moody「高齢者・非がんの緩和ケア」

Prof. Eduardo Bruera: "Integration of Palliative Care"

Prof. Florian Strasser: "Integration of Oncology & Palliative Care: An ESMO-focused global perspective"

Prof. Fitzhugh Mullan「がんサバイバーシップの原点を語る」



## ■患者アドボケイト・ラウンジ(PAL):PAL 患者家族参画プログラム

PALは患者・家族・遺族を支援する団体運営者または個人が、内外の緩和医療に関する知識と最新の情報を得て頂くこと、学術大会参加で得られた知識や情報をもとに学術大会参加者との対話を深め、緩和医療の普及・啓発・向上と患者・家族・遺族を支援する活動に活かして頂くことを目的に、緩和医療学会学術大会において初めて設置しました。

PAL発表19演題、参加者数63名で写真のように活発な討議が行われました



## ■市民参加セッション “拝啓 若者たちへ ～AYA 世代(15 歳～30 代)の「今を生きる」を考えよう”

ゲスト: 川村 優希(医師)、小泉 進次郎(衆議院議員)

参加者数700名(うち、一般市民からのご参加180名)

医療ではその年代の特徴を掴みながらケア・支援を行う必要がありますが、今回、若い市民の方々にご来場いただき、「今を生きる」ことを共に考える時を持ちました。

## 懇親会

参加者数 約 300 名

冲永佳史帝京大学学長をはじめとして、細川豊史日本緩和医療学会理事長、柏木哲夫日本ホスピス緩和ケア研究振興財団理事長、志真泰夫日本ホスピス緩和ケア協会理事長、その他 喜多悦子笹川記念保健協力財団会長、海外招聘演者の方々にもご発言を頂きました。

帝京大学外科学講座秘書 藤田悠里子様をはじめとする「リリィカルテット」の皆様ピアノ・弦楽器四重奏の生演奏で大会を盛り上げて頂きました。

大会マスコットの「ぱりいちゃん」も参加しました。帝京大学スタッフによる「恋ダンス」を披露させていただきました。



## 帝京大学からの発表・座長(敬称略)

有賀悦子	緩和医療学講座	演者	私が緩和ケア医である理由
		座長	IJSY2017 - Integration
		座長	オピオイド誘発性便秘症の新たな選択肢
		演者	拝啓 若者たちへ～AYA世代(15歳～30代)の”今を生きる”を考えよう
市川靖子	内科学講座 腫瘍内科	演者	抗がん治療が終了するとどうなりますか？
大澤岳史	緩和医療学講座	演者	緩和的外科治療の適応をどう考えるか
江口研二	難治疾患支援学講座	座長	どうなる？がん対策～今までとこれから
南川雅子	医療技術学部看護学科	演者	大切な大人ががんになったとき～子どもたちを支えるために
		演者	支えになるために～そのスキルを磨く
河野博隆	整形外科学講座	座長	骨転移患者の集学的ケア
		座長	緩和医療における骨転移マネジメント
渡邊清高	内科学講座 腫瘍内科	座長	都市型がん医療と地方のがん医療
貫田みゆき	附属病院 看護部	演者	学校におけるがん教育
高木雄亮	緩和医療学講座	座長	抗がん治療：化学内分泌療法/放射線治療
關山裕詩	麻酔科学講座	座長	痛みの機序からがん疼痛治療を考える
山本貴嗣	内科学講座	演者	慢性便秘症の診断と治療
夏目まいか	内科学講座 腫瘍内科	演者	高齢者の頭頸部癌に対する放射線照射の有害事象マネジメントの検討
沢座隆俊	附属病院 看護部	演者	緩和ケアチームによる病棟ヒアリングの効果と課題

## 学術大会の企画・運営に携わった帝京大学スタッフ

内科学講座 腫瘍内科 渡邊清高准教授:大会組織委員(PALワーキンググループ)、メディア向け広報資料作成

緩和医療学講座 大澤岳史:大会組織委員(事務局長)

緩和医療学講座 高木雄亮:大会組織委員

外科学講座秘書 藤田悠里子:懇親会などでの生演奏と関連業務

その他、帝京大学スタッフ(看護部:貫田みゆき、石井 恵、沢座隆俊、臨床心理士:滑川宏美、緩和医療学講座秘書:吉野博子)は、懇親会事前準備・運営、海外招聘演者接待、セッションの広報など多方面で大会運営に関わりました。